

性に関する偏見をなくすための ～乳幼児から始める性に関する意識改革～

要旨

現在、世界の各地で人種、性別あらゆる観点からの差別による不平等や格差が生じており、SDGsにおける目標の1つにも課題として挙げられている。

①現状として学校でLGBTについての授業がなく、取り組みとして不十分である。そして、LGBTについての知識不足からの偏見がいじめや自殺に繋がる。

②平成21年、文部科学省幼児教育課の「幼児教育の無償化の論点」によると、人間の脳は3歳までに80%、6歳までに90%、12歳までに100%完成すると言われている。

そこで、探究テーマを①より「従来の性についての概念を変える」というものにし、解決方法として②から「乳幼児向けの絵本の作成し、将来的にジェンダー差別をなくす」プロジェクトを進めた。

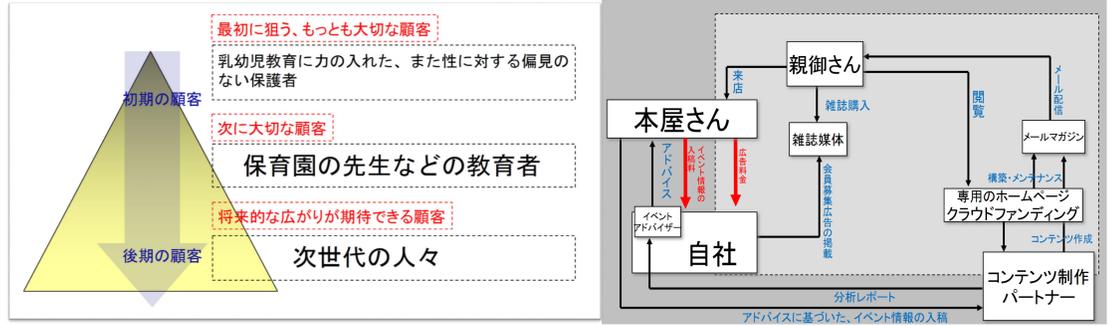
プロジェクトの実施内容

①ビジネスプラン作成

物心がつく前に性に対する従来の考えを変える

↓
乳幼児期に性にセクシュアルに対する偏見をなくす

↓
絵本を売る



②絵本作成



- ・ 3～4歳向け
- ・ 性の多様性を間接的に
- ・ 普通の絵本としても楽しめる
- ・ 電子書籍ではなく紙絵本

③今後の事業展開 クラウドファンディング

①スポンサー(“誰から”得るのか) クラウドファンディングにて関心のある人

②課金項目(“どんな収入をどれだけ”得るのか) 50部 680000円
2000円×340人

③支払い条件(“いつ”得るのか) クラウドファンディング

プロジェクトの目標(評価基準)&計画

| プロジェクトテーマ | プロジェクト年間計画表 |
|--|-------------|
| 乳幼児期から始める性に関する意識改革 | |
| 評価基準 1) ジェンダーの多様性を理解できたかどうか | |
| 評価 | 評価の基準 |
| 0 以下に示す基準に達していない。 | |
| 1 ジェンダーに多様性があることを知る。 | |
| 2 インターネットを利用して、性的マイノリティもつ人の生の意見を知る。 | |
| 3 本校で、生徒および教職員に性に関する意識調査を行う。 | |
| 4 インターネットや書籍を用いて、性的マイノリティをもつ人への日本政府の対応や取り組みを調べ、国内における現状と課題を発見する。 | |
| 評価基準 2) 人々の性に関する偏見を軽減するための具体案ができたかどうか。 | |
| 評価 | 評価の基準 |
| 0 以下に示す基準に達していない。 | |
| 1 具体案が出た。 | |
| 2 具体案は出たものの、人々の性に関する偏見を軽減するという効果が期待できない。 | |
| 3 人々の性に関する偏見を軽減するという効果が期待できる具体案が出たものの、独自性に欠ける。 | |
| 4 人々の性に関する偏見を軽減するという効果が期待でき、独自性のある具体案が出た。 | |

現状

①近年、世の中では人と違うということはいじめを受けたり、偏見を持たれたりして命をたってしまう、また公共の場などで不便を感じているという人が沢山おり、問題視されている。



自殺念慮を抱いたことがある
性同一性障害者は70%

※自傷・自殺未遂を経験したことがある
性同一性障害者は約30% ※4

②LGBTの当事者を支援している競合他社は複数存在しているが、それは**当事者のためのアプローチ**であって、偏見をなくすという効果は期待できない。

③LGBTという**個性の多様化を社会が誇張して掲げる**ことにより、世間が当事者を異質なものとして過剰に意識する風潮がある。

プロジェクトの成果

・課金モデル、ビジネスプラン完成

評価基準(1.2)について—自己評価4 理由↓
・インターネットや書籍を用いて、性的マイノリティを持つ人への日本政府の対応や取り組みを調べ、国内における現状と課題を発見できた。

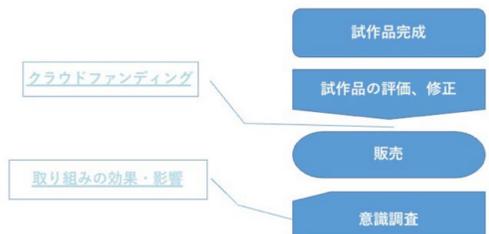
・人々の性に関する偏見を軽減するという効果が期待でき、独自性のある具体案の提案が出来た。

今後の課題・展望

今回の取り組みでは、期間が短く、乳幼児に向けた絵本の作成・販売による、意識改革が成功したのかどうかについての結果を得ることができなかった。

最終的には意識調査を行い、このプロジェクトの成果を調べ、現在抱えている課題に向き合いたい。

今後の予定



まとめ

LGBTの当事者だけを支援したところで、それは対処であり、問題の解決には至らないため、将来的にも差別はなくなるのではないかと考えた。そこで偏見を軽減する具体案として「乳幼児に向けた絵本の作成」に取り組み、他の競合他社が当事者に向けて発信しているのに対し、私たちは物心がつく前の乳幼児に向けてセクシュアルに対する概念を変えるという独自の視点から発信することにした。今後機会があれば、是非意識調査まで行い、このプロジェクトがどの程度意味のあるものだったのかを知り、性的マイノリティを持つ人だけでなく、様々な人が抱える問題に向き合いたいと思う。